

科目名称：	イラストレーション演習	
担当者名：	権田宜子	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
美術を学ぶには多くの分野があり、その表現技法は多種多様である。この授業では、水彩絵の具を使用して風景のイラストレーションを描くことを目標に、毎回の授業で演習を積み重ねていく。教科書の演習課題から知識や技法を得ることで、鉛筆から始まり水彩絵の具の表現の可能性を広げ、風景画の表現手段やアイデアを蓄積することで、これからの制作に活用していくことが目的である。		
授業の達成目標・到達目標		
授業では鉛筆を使って描きながら少しずつ水彩絵の具を使うことに慣れていく。教科書からテーマをもとにした課題が毎回出され、そこで学んだ知識・技法を深く理解しながら授業時間内で完成させることを目標とする。作品については教科書に鉛筆で描き込んでいくが、各自のスケッチブックにも練習として各回学んだ技法を応用して描くなど、復習することで画力の向上に努めてほしい。		

美術学科		ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP (1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し、美術を通して様々な価値観を持つ他者との良好な信頼関係を築いていくことができる。		
DP (2)	様々な問題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、美術を通して、変化する社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。		
DP (3)	美術の分野において基礎知識を身につけるとともに、専門的な知識や技能を修得し、これらを柔軟に活用し表現していくことができる。		○

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	授業への熱意・関心度	合計
美術DP (1)					0
美術DP (2)					0
美術DP (3)			80	20	100
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》 加賀友禅工房（有）千紅	《経験年数1》 8年
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》
備考		

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
理解	アナログの技法について良く学び、よく理解することができる	アナログの技法について良く学んだが、少し理解することができる	アナログの技法のことは知っているが、理解までは至っていない	アナログの技法のことをあまりわからない
表現力	鉛筆・水彩絵の具の技法をよく理解できたので、他の様々な画材も使って風景を描いてみたい	鉛筆・水彩絵の具の技法を理解できたので、機会があれば他の様々な画材も使って風景を描いてみたい	鉛筆・水彩絵の具の技法を少し理解できたが、他の様々な画材で風景を描くまで考えが及ばない	鉛筆・水彩絵の具の技法をあまり理解しておらず、風景を描く表現についてわからない
知識	鉛筆・水彩絵の具の種類や技法を知り、さらに知識を増やすために検索して調べた	鉛筆・水彩絵の具の種類や技法を知り、他にもさらに学びたいと思う	鉛筆・水彩絵の具の種類や技法を知っていても教科書の学びだけでいい	鉛筆・水彩絵の具の種類や技法をまったくわからない
意欲	風景画についてさらに追求し、技術を身につけたい	風景画についてさらに追求したい	風景画について興味がある	風景画は難しいと思う

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間（分）
第1回 「まっすぐな線」と「だ円」を描く	スケッチの技法がどのようなものであるのか教科書で下調べしておき、各回で授業内で終わらなかった課題については、自習して完成させておくこと	40分
第2回 身近な題材でさまざまな線を組み合わせて描く	教科書を読んで、スケッチの表現について理解しておく	40分
第3回 曲がった線や陰影を描く①	教科書を読んで、スケッチの表現について理解しておく	40分
第4回 曲がった線や陰影を描く②	教科書を読んで、スケッチの表現について理解しておく	40分
第5回 奥行き表現を練習する①	教科書を読んで、スケッチの表現について理解しておく	40分
第6回 奥行き表現を練習する②	教科書を読んで、スケッチの表現について理解しておく	40分
第7回 塗りをくわえる①	教科書を読んで、スケッチの表現について理解しておく	40分
第8回 塗りをくわえる②	教科書を読んで、スケッチの表現について理解しておく	40分
第9回 【水彩画】水彩絵の具の使い方①	教科書を読んで、水彩の表現について理解しておく	40分
第10回 【水彩画】水彩絵の具の使い方②	教科書を読んで、水彩の表現について理解しておく	40分
第11回 【水彩画】水彩絵の具の使い方③	教科書を読んで、水彩の表現について理解しておく	40分
第12回 【水彩画】水彩絵の具の使い方④	教科書を読んで、水彩の表現について理解しておく	40分
第13回 【水彩画】スケッチに出掛けよう	教科書を読んで、水彩の表現について理解しておく□	40分
第14回 【水彩画】スケッチを仕上げる	教科書を読んで、水彩の表現について理解しておく□	40分
第15回 水彩画の講評会	これまで学んだ水彩の技法をもとに完成した作品を発表し、プレゼンテーションをする	40分
事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。		
成績評価の方法・基準		
定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。 課題作品 80%、授業への熱意・関心度 20%		
課題に対するフィードバック		
各回の課題については教科書に鉛筆で描き込むことから、学生には教科書作品をフィードバックし、指導教員からの評価をもとに今後の制作に活用させるようにする。		
教科書・参考書		
スケッチのきほん 株式会社日本実業出版社 山田雄夫、超初心者のかんたん風景スケッチ 河出書房新社 鈴木新		